

業況、一進一退で厳しい状況

5月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

はっきりとした明るい兆しは見え、業種間で景況感にバラツキも見られ、業況は、一進一退の厳しい状況にある。こうした中、今後の節電需要等への期待感が見受けられる一方で、更なる消費の冷え込みも懸念。

製造業	食料品		パンは7月から小麦粉の販売価格が下がる見込みだが、販売価格への影響は不透明。菓子は、景況悪化の影響で昨年よりやや悪い状況。製麺は、生麺・乾麺とも売上減少傾向が続く。酒造は、前年並みで推移。
	繊維・同製品		婦人服地は、秋物生産が最盛期を迎え好転。輸出向けは苦戦。浴衣関連は一昨年並み。伊勢崎織物は、新規問合せの取引条件等が厳しい。繊維製品は、例年より悪化傾向。ニットは、夏物が少しずつ動きだしている。
	窯業・土石製品		生コンの出荷量は、公共工事の前倒し発注で昨年度を上回る。コンクリートブロックは、3月、4月の販売減少分が5月にずれ込み微増。コンクリート製品は、ダンピング傾向。碎石は、上信バイパス（渋川市金島～東吾妻町箱島間）工事の進捗に期待。
	機械・金属		鍍金は、価格競争が厳しい。自動車関連は順調に推移する中、原材料・電気料金の高騰や欧州経済の行方を不安視。昨年のタイ洪水の影響も依然みられる。パナソニック関連は、夏以降、一部製品の中国生産移行を不安視。組合による新たな生産拠点、購入ルートの開拓も検討課題。
	その他の製造業		製材は、設備操業度が増加し、荷動きはあるが単価下落で厳しい。紙加工品は、食品関連は堅調継続。国内販売向け自動車関連は増加、家電品関連は低調。印刷業は、原材料の値崩れがみられる一方、紙の仕入では、資金捻出力の差による影響がみられる。
非製造業	卸売業		仕入単価上昇、販売価格低下、商品在庫増加、人員過剰、代金回収の長期化傾向。食品関連は増加傾向。繊維関連は低迷。海外貨物の取扱は料金低下で売上高減少傾向。農産物卸は、野菜類が前年比売上増。水産物卸は厳しい状況が続いている。
	小売業		家電小売店は、節電対応の工事分野への取組みが始まる。中古車オークションは、成約率はやや低めで推移。ガソリンは、需要低迷により先行値下げのスタンドも散見。商店街は、消費低迷の中、電気料金値上げ等で更なる消費の冷え込みを懸念。化粧品は、消費が停滞し売上は横ばい。
	サービス業		伊香保温泉は、昨年より入込は良いが廃業もあった。草津温泉は、団体客が戻り、入込は良好。自動車整備需要は、売上・収益とも前年並みに推移。ビルメンテナンスは、連休で現場作業員の人件費負担が減るため、利益が確保できる事業所もみられた。
	建設業		総合工事業は、本格的な復興事業の影響で、今後、技術労働者不足や資材の高騰を懸念。電気工事業は、公共工事、LED照明器具取替工事等の発注に期待。塗装工事は、省エネのための遮熱塗装の見積り依頼が増加し、今後に期待。
	運輸業		自動車関係は、サプライチェーンの正常化、販売好調等により好転。GWで稼働日が減り荷動きは月末に集中。軽油価格は若干値下げしたが依然高止り傾向。小口輸送も、自動車関連輸送が忙しく売上増。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 111.5(前月比▲1.5%)「県統計課・4月」
- 販売電力量 131,006万kWh(前年同月比+4.4%)「東電群馬支店・4月」
- 住宅着工戸数 785戸(前年同月比▲14.8%)「県建築住宅課・4月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規1.56倍:有効1.00倍「群馬労働局・4月」
- 大型小売店販売額 221億円(前年同月比▲1.9%)「経済産業省・4月」
- 消費者物価指数(全国) 100.4(前年同月比+0.4%)「総務省統計局・4月」
(鉱工業生産指数は17年=100とした指数・消費者物価指数は22年=100とした指数)